

にんじん・秋冬どり(向陽二号、陽州五寸他)

千葉農林振興センター

1 地区名(集団名)

千葉市東部地区(JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会)

2 栽培戸数、栽培面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 46戸
- (2) 栽培面積 約30ha
- (3) 収穫量又は出荷量 118,000ケース
- (4) 出荷先又は販売方法 市場出荷 ※平成17年度栽培計画より

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	6回以下	8回
化学肥料(窒素分量)	7.2kg/10a以下	7.5kg/10a

※統一栽培暦より

4 事例のあらまし

JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会は、部会員数80名強、そのうち半数以上がちばエコ栽培をしています。平成14年のちばエコ農業推進事業のスタートと同時に、いち早く産地指定を受けました。

土壌消毒剤と除草剤の代替技術として、7月上旬からは種前の8月上旬にかけて、太陽熱を利用した土壌消毒が普及しています。線虫対抗植物や落花生等との輪作体系、堆肥や緑肥による土づくり、病害虫に強く品質の良い品種の選定等、高品質なにんじんを安定的に生産するため、たゆまない努力をしています。

市場出荷の他、千葉市内の学校給食用にも出荷しています。安全で安心な地元の農産物として地域でも喜ばれています。平成15～17年には、JAが主体となって、ちばエコ農産物応援団育成事業を導入し、「ちばエコ農産物収穫体験ツアー」を行い、消費者交流を通じて産地の取り組みをPRしています。

5 背景・動機

千葉市東部地区は、にんじん、だいこん、さといも、ばれいしょ等の根菜類を中心とした露地野菜経営が古くから営まれてきました。昭和53年に生産組織「JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会」が発足し、露地野菜の産地として地位を固めてきました。しかし、農産物の価格低迷や地力の低下が問題となりはじめ、産地の活性化に向けて新

たな取り組みが必要となってきました。一方、地域の消費者との交流の中で、安全で安心な地元の農産物への要求がとても高いことがわかってきました。

このような背景により、生産者と関係機関で話し合いを重ね、減化学・減農薬栽培に取り組むことで目標が一致しました。平成10年には国の「特別栽培農産物に係るガイドライン」に従って、主力品目のにんじんとだいこんから具体的な取り組みを始めました。その後も検討会や講習会等を重ねながら、技術の向上と品質・収量の安定化を図り、連合会の統一栽培暦を作成しました。平成14年には、ちばエコ農業推進事業が始まったことを受けて、産地指定に向けて取り組み、秋冬どりだいこんで県下第1号、秋冬どりにんじんで第2号の産地指定を受けました。現在では、ばれいしょ、さといも、秋冬どりこまつなが加わり、計5品目で産地指定を受けています。

6 栽培方法

- (1) 土づくり…緑肥の栽培とほ場へのすき込みや、完熟堆肥の施用により、土づくりをしています。堆肥を栽培直前に施用するとにんじんの品質を低下させるおそれがあるので、前作に施用することが多いです。
- (2) 施肥…有機質肥料を適量施用しています。追肥は間引き時に行います。
- (3) 太陽熱消毒…高温の時期にほ場に透明マルチを張り、太陽熱を利用して土壌消毒を行っています。線虫と雑草の抑制に効果的です。マルチはは種直前にはがします。



透明マルチを張る



は種直前にマルチをはがす



は 種



は種1ヶ月後の除草効果（右は無処理）

- (4) は 種…シミ症回避の為、早播きを避けています。
- (5) 間引き…は種後40～45日に、生育状況を見て行っています。
- (6) 中耕、土寄せ…間引き後、畝間を耕し除草しています。土の通気性と水はけが改善され、生育も良くなります。
- (7) 病虫害防除…適期防除に努め、最小限に抑えています。

ア 栽培管理 ※平成17年の事例

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成17年6月6日
基 肥	7月9日
太陽熱消毒	7月10日～7月29日
殺虫剤散布	7月29日
は 種	7月29日
間引き、追肥	9月9日
中耕(除草)	9月中旬
病虫害防除	9月17日
収穫開始	12月10日

イ 使用資材 ※平成17年の事例

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N-P-K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
緑 肥 (ニューオーツ)	平成17年6月	0.5 t		
乾燥鶏糞	7月	0.3 t		
やさいみどり有機(8-9-7)	7月9日	100kg	8 kg	4 kg
やさいみどり有機(8-9-7)	9月9日	40kg	3.2kg	1.6kg
合 計			11.2kg	5.6kg

※前作の前に完熟堆肥を施用 (落花生ガラ等)

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
フォース粒剤	ネキリムシ類	平成17年7月29日
ベルコート水和剤	黒葉枯病	9月17日
エルサン乳剤	ハスモンヨトウ	9月17日
ロブラール水和剤	黒葉枯病	10～11月 (適期☆収穫14日前まで)
エルサン乳剤	ハスモンヨトウ	10～11月 (適期☆収穫30日前まで)
化学合成農薬使用回数5回		



順調に生育



ちばエコ農産物収穫体験ツアー

7 今後の展望等

すでに高い技術を有する人参部会ですが、さらに技術を高めることを全員で目指しています。

- ① 太陽熱消毒技術の安定化と普及…太陽熱消毒には、線虫と雑草の抑制効果があることが認められていますが、より効果を高める為、マルチの被覆期間や被覆時期を検討し、多くの会員への普及を目指します。
- ② 土づくりの推進…堆肥や緑肥を上手く利用した土づくりをさらに進めます。
- ③ 輪作体系の検討…病害虫対策や、経営の安定化等の観点から、最適な輪作体系を検討します。
- ④ 品種の選定…品種比較試験を通じて、病害虫に強く、ちばエコ栽培に適し、消費者や実需者のニーズに合う品種を選定します。

また、有利販売に向けた取り組みも展開します。

① 市場評価の維持・向上

安全安心高品質なちばエコ農産物を、安定的、計画的に出荷し、市場評価を高めます。

② 外部へのPR

消費者や流通業者との交流を通じて、ちばエコ農産物や産地の取り組みを積極的にPRします。

今後、この部会の取り組みが他地域の生産者にも波及し、より多くの消費者にちばエコ農産物が供給されることが期待されます。